

第 140 回 CERN 理事会メモ

日時 2006 年 12 月 15 日 (金) 場所 : CERN

(1) Aymar 所長報告 :

2007 年に衝突開始、2008 年に物理結果を出すというスケジュールに確信がある。5 年毎に行う雇用条件の変更を行い合意に至った。欧州戦略を作り承認された。この戦略に従って LHC を最大限に使いアップグレードに向けての開発を可能にするために追加予算 (+240 MCHF) や人員に関するホワイトペーパーを提出したので CERN の将来のためにも貢献して欲しい。非加盟国からも期待する (表現は Why not from non-member states, too?)。

(2)-(7) クローズド理事会で決定された事項 (理事会委員長など):

2007 年 1 月からの理事会委員長は Torsten Akesson 氏 (スウェーデン)、副委員長には Gregor Herten (独) と Branislav Sitar (スロバキア)、財政委員会委員長に Martin Steinacher (スイス)、TREF 委員長には Cornelius van Riel (オランダ) が選出された。長年の問題だった年金制度改定の合意が得られた。

(8) LHC 関連事項 (文書 CERN/2695):

Lyn Evans プロジェクト部長による LHC 加速器: 11/27 に最後の超伝導マグネットが納入され、記念祝賀会が開かれた。来年 3 月にマグネット据付が終わる。セクター No.7-8 をもうすぐ冷やし始める。11/25 に衝突点ビーム収束用マグネットの熱交換パイプで圧力試験中にリークが見つかった。フェルミ研究所と協力して修理する。スケジュールには多分影響なさそう。10 月にコストとスケジュールのレビュー委員会が開かれ、21.77MCHF の予備費の必要性和 900GeV の運転をその目的が達せられるまで延長してでも行うこと、が要請された (文書 CERN/2706)。

J. Engelen 副所長による LHC 実験装置の報告: アトラス実験ではソレノイド・中央トロイド電磁石の試運転にそれぞれ成功した。前後方超伝導トロイドの建設が遅れているが何とか 2007 年 8 月に間に合いそう。CMS 実験では大ソレノイド電磁石の運転に成功し、装置の地下への装置移動が始まった。前後方の電磁カロリメーターの一部は完成せず 2008 年に地下で追加する。CMS のスケジュールは厳しい。LHCb, アリス実験は建設が順調。計算機グリッドもベースラインが出来つつある。

(9) K. Peach SPS 委員長報告 :

加速器諮問委員会 (MAC) からは 900GeV の運転はその目的が達せられるまで続けるべきだとの意見が出された。CMS 実験のスケジュールが大変厳しい。物理の進展 (略)。

(10) T. Akesson ECFA 委員長報告：

ICFA は将来のニュートリノ物理の検討を始めた。ILC 計画では GDE によるコスト評価が来年 2 月に出る。ILC 加速器の設計やレビューは続く。ILC 実験の選定について議論。ECFA 活動としてデンマーク・フランス・ハンガリーを訪問した。新しい委員長を選出した。

M. Spiro 氏 (仏) の発言が特にあり、2007 年 2 月に ILC のコストが公表されるとインパクトが大きいのでメディアが騒ぎ、LHC にとって不利な報道がなされないとも限らない。対処をきちんと考えておくべきだ、との懸念が表明された。これに関しドイツ代表も、CERN は LHC が完成近いということを積極的に広報して欲しいとの意見を述べた。

(11) AOB:

今回でそれぞれの任務を終える Enzo Iarocci (理事会委員長) , Eivind Osnes (理事会副委員長) , Janet Seed (財政委員長) , Fernando Bello (TREF 委員長) , Andre Naudi (CERN 財政主任) , Torsten Akesson (ECFA 委員長) への謝辞が述べられた。

(注) 日本からの出席者：

本橋 文部科学省基礎基盤研究課量子放射線研究推進室長補佐

齋藤 在ジュネーブ国際機関日本政府代表部

河西 KEK 国際企画課、

近藤 KEK 素粒子原子核研究所

以上 メモ by 近藤